



浜通り研修

双葉下旬C班

- 登尾悠平 (Tu)
- 蓼沼烈
- 飯田壮太
- 小林寛太

目次

- 双葉町の現状
- 誰に何を伝えるか
- 伝え方
- 双葉町の未来
- まとめ

双葉町の現状①

- 双葉のほとんどの地域は帰還困難区域のまま
- 時間が止まっている地域がほとんど
- 住民の数は約90人程度でインフラ復興もまだまだ進んでいない
- 役場の職員が半分程度
- 買い物に行くにも隣町まで出かける必要があるため足が必要

双葉町の現状②

- 産業交流センターのように復興の兆しとなるものもできている
- 2025年には商業施設もオープンする
- インフラ復興も進みつつある



誰に何を伝えていくか？

身近な人々（家族や友人）→日本全体→世界中に

伝えていくことは 福島の現状と今後への展望

誰もがわかるように絵やグラフなどを使ってわかりやすく説明

※良いことはもちろん、悪いことも説明していかなければならない。



伝え方

1. 観光産業

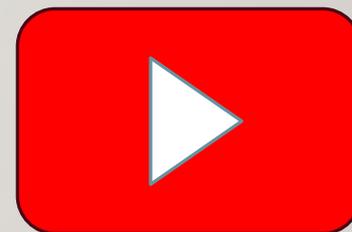
- ・現地に足を運んでもらう形

2. YouTube

- ・若者世代や日本、世界に発信可能

3. テレビで世界中に発信

- ・あらゆる世代、地域に発信可能



双葉町の未来①

- 帰還困難区域の除染が進み、居住者の増加が見込まれる
- 商業施設や住宅の整備が進む
 - 居住者の増加に伴い、商業施設と住宅の整備は必須
- 企業の誘致による産業の活性化
 - 高速道路が近く、使用されていない土地も多くあるので、企業の誘致には適している。そのため新たな産業の発展と双葉町での労働者の増加に期待できる

双葉町の未来②

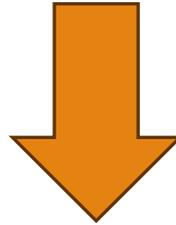
- ・双葉町の魅力を発信
 - 伝統文化の双葉だるま・豊かな自然など
- ・震災前とは異なる新たなまちづくり
 - 福島イノベーション・コースト構想
- ・震災からの復興の様子を発信
 - 復興の様子を発信し、多くの人に関心を持ってもらう
- ・震災遺構を残し、後世に伝える
 - 同じような事故を起こさないためにも重要



まとめ

震災から12年...あれから、双葉町は？

ようやく人が住めるようになり、復興の兆しが見えてきた。しかし、
現地の人のお話を聞くと課題も多い現状



少しでも多くの方が双葉町の復興に関わり、一歩ずつ前進していく
必要がある。そのために、研修会で見聞した情報を適切に人に伝える
ことが重要